

事業活動報告

巨樹・古木フォーラム in いちかわ

樹木医 塚原道夫

1. はじめに

平成 21 年 2 月 12 日、「第 4 回巨樹・古木フォーラム in いちかわ」を開催しました。平成 18 年度、「県と NPO との協働事業」から始まり、これまで千葉市、習志野市、船橋市と共同開催してきました。本年度は市川市との共同開催となりました。平日にもかかわらず、市川市民はじめ、300 名近い参加者があり盛会でした。

2. 内容

内容は次のとおりです。

日 時 平成 21 年 2 月 12 日(木)
場 所 メディアパーク市川グリーンスタジオ
テーマ 後世に継承するみどり豊かなふるさと市川
主催者挨拶
吉光孝一(市川市 水と緑の部 次長)
中村元英(NPO 法人樹の生命を守る会 理事長)
基調講演
「見つめ直す巨樹・古木の現状と問題点」
高野史郎
(財)日本自然保護協会 自然観察指導員
千葉県環境学習アドバイザー
パネルディスカッション
コーディネーター
塚原道夫(塚原緑地研究所 代表取締役)
パネラー
高野史郎(日本自然保護協会 自然観察指導員)
小山真澄(市川市 みどりと花の専門員)
松原 功(元千葉県森林研究センター 次長)
杉野式男(市川市保存樹木協定者)
高山政美(市川市 水と緑の部 緑地課長)
司 会
相川美絵子(東京大学演習林)
後 援 千葉県・千葉県樹木医会

ロビーでは 8 団体の PR ブースが設置され、それぞれの団体の活動内容が紹介されました。

都市化の進む市川市では、市内の巨樹・古木を調査し、その資料が市民に公表されています。また、「花とみどりの市民大学」によって、みどりのボランティアが育成さ

れ、市民による里山づくりのとりくみが進められています。このフォーラムをとおして、都市におけるみどりの意義と、巨樹・古木や里山を守り、継承することの重要性を、参加者が共有することができました。



(会場の様子)



(PR ブース)

3. むすび

巨樹古木フォーラムは 4 年目となり、毎回多くの市民の参加があります。今回、開催決定から 1 ヶ月余の準備期間というあわただしさにもかかわらず、つつがなく開催できたのは、市川市緑地課職員の熱心な取り組みと、事務局を担当した NPO 法人みどりのネットワーク千葉、運営にあたった当 NPO 会員の協力のおかげでした。

これまでは行政との協働によって進めてきましたが、今後は市民と連携した活動に発展していくことが求められています。「巨樹・古木を愛する市民の輪」を広げていくことが、これからの課題です。

(写真撮影：鳥山貴司氏)